第8回 WebStorage と JSON、Webサー バーの動作確認

今回の演習の目的は次のとおりである。

- ブラウザ内に情報を保存する WebStorage の利用法
- 構造化されたデータを表現する一つの方法としてある JSON 形式を理解し、利用できること
- 他の授業でインストールしてあった XAMPP の設定を確認し、Web サーバーが各自のノートパソコンで動作できることを再確認する。

課題に(必須)と書かれたものを最低行うこと。それ以外の課題はいくつか選択してよい。

課題 1 (バンジオ・ビンナの錯視図形) 演習のビデオ1を見て次の問いに答えよ。

- 1. 次のことについて報告をする。
 - (必須) バンジオ・ビンナの錯視図形のページで、構成する色を変えることができること
 - (**必須**)localStorage 版のバンジオ・ビンナの錯視図形のページを表示させ、構成する 色を変えた後でページを閉じ、再度表示させたときに最後の色が表示されること
 - (必須)localStorage の値を確認する。また、ブラウザで localStorage を直接変えた
 後、再度表示した結果
 - (必須)localStorage 版の 9 行目のコメントを外した時に上記と同様のことを行うとどうなるか。
 - バンジオ・ビンナの錯視図形のページで表示させる図形の形を変えるパラメータを外部 から指定できるようにする。同様の動作は localStorage 版でもできるようにする。

課題 2 (JSON) 演習のビデオ2を見て次の問いに答えよ。

- 1. (必須)localStorage 版の JSON 形式で保存するバンジオ・ビンナの錯視図形のページ を表示させ、構成する色を変えた後でページを閉じ、再度表示させたときに最後の色が表示されること。
 - バンジオ・ビンナの錯視図形のページで表示させる図形の形を変えるパラメータを外部 から指定できるようにしたもののデータを JSON 形式で localStorage の一つのとこ ろに保存するようにする。
- 2. 「HTML と SVG の間でデータを交換」において次のことができるようにする。
 - (必須) 最終のデータを個別に localStorage に保存する。
 - (必須) 最終のデータを JSON 形式で localStorage に保存するる。

- 今までに作成した SVG 図形の各種パラメータを localStorage に保存できるように変 更する
- 3. 分割代入に関する事項を答えよ。
 - 分割代入で2つの変数の値を入れ替える式を1回の代入で済ませるプログラムを書け。
 - ◆ 次のプログラムを実行するとエラーが発生するか、結果がどうなるか確認する。
 - [a,b] = [1,2,3]
 - [a,,b][a,,[b]] = [1,2,[5,6,7]]
 - [a,,b][a,...c] = [1,2,3,4,5]
 - バンジオ・ビンナの錯視のプログラムで得られる

document.getElementsByTagName('input[type="text"]')

に対して for Each が直接実行できないことを確認する (10 行目の Colors.for Each(...) を Cs.for Each(...)) で書くとエラーが発生する)。

• 分割代入は前間のものに対しても可能であるか確認する

課題 3 (XAMPP の起動と基本設定の確認) 演習のビデオ3を見て次の問いに答えよ。

- 1. (必須)XAMPP の起動ができることを確認する。
- 2. (必須)XAMPP の設定に関する次のことを答えよ。
 - (a) XAMPP のインストール場所
 - (b) http://localhost にアクセスしたときに表示される画面
 - (c) http://localhost/index.html と http://localhost/index.php にアクセスしたと きに表示される画面

http://localhostにアクセスしたときに表示されるファイルは何か考

3. (**必須**)localhost にアクセスしたときに表示されるページの左側にある phpinfo() から次 の項目を探し、その下に記せ。

• Document_Root	
a Landad Camfirmunation File	
• Loaded Configuration File	
• Apache の設定ファイルの名称と所在	
• php.ini がある場所	

- 4. (必須) 簡単な HP を作成して表示できることを確認せよ。
- 5. ビデオを参考に PHP をサーバーモードで起動できるようにせよ。次の画面を付けて報告せよ
 - コマンドプロンプトのショートカットの作成
 - ショートカットの作業フォルダの変更
 - コマンドラインから PHP を実行した結果
 - localhost で表示されたページ

情報メディア専門ユニットI(演習)

第7回(6/6)ノートの内容

項目の最後の文字は次に示す項目の評価である。 \mathbf{y} (プログラム等のリスト)、説 (プログラム説明が手書きまたは印刷である)、 \mathbf{Z} (結果のキャプチャ画面)、 \mathbf{Z} (考察が手書きまたは印刷である) を意味し、次の記号で評価を示す。 \mathbf{Z} (不備またはない)、 \mathbf{Z} (もう一息)、 \mathbf{Z} (良い)、 \mathbf{Z} (し、)、 \mathbf{Z} (し、)

評価項目	優れている	標準的	改良の余地あり	
課題 1-1 (10%)	□var と let による変数の宣 言の違いが例とともに十分 にある。	□同一ブロックにおける varと let による変数の宣言が 2回あり違いの説明がある。 □入れ子になったブロックにおける varと let による変数の宣言がともにあり、違いの説明がある。 □入れ子になったブロックにおける varと let による内側でのブロックが終了した後の変数の値の違いの説明がある。	□同一ブロックにおける var と let による変数の宣言が 2 回ないか、違いの説明が ないか間違っている。 □入れ子になったブロックに おける var と let による変数の宣言がないか、違いの 説明がないか間違っている。 □入れ子になったブロックに おける var と let による内側でのブロックが終了した後の変数の値の違いの説明がないか間違っている。	リ説図考
課題 1-2 (10%)	□引数のデータ型が異なる関数を定義し、関数内で仮引数の値を変更するサンプルを作成している。 □作成した関数をコンソールから動作を十分にチェックしていて考察が正しい。	□引数のデータ型が異なる関数を定義し、関数内で仮引数の値を変更するサンプルを作成していが、変更する部分が少し足りない。 □作成した関数のコンソールからのチェックが少し足りないか考察が不十分である。	□引数のデータ型が異なる関数を定義し、関数内で仮引数の値を変更するサンプルの作成が足りない。 □定義した関数内で仮引数を変更する部分が足りない。 □作成した関数のコンソールからのチェックが足りない。 □考察が不十分である。	リ説図考
課題 1-3 (10%)	□他の言語と変数の宣言の比較が十分なされている。 □他の言語と変数のスコープルールの比較が十分なされている。 □他の言語と関数のスコープルールの比較が十分なされている。	□他の言語と変数の宣言の比較が var と let でともになされていない。 □他の言語と変数のスコープルールの比較が var と letでともになされていない。 □他の言語と関数のスコープルールの比較がローカルとグローバルの一方でしかなされていない。 □同一関数名の定義ができるかどうかの説明が不十分である。。	□他の言語と変数の宣言の比較がないか、不十分である。 □他の言語と変数のスコープルールの比較がない。 □他の言語と関数のスコープルールの比較がない。 □同一関数名の定義ができるかどうかの項目がない。	説考

次のページに続きがあります

評価 項目	優れている	標準的	改良の余地あり	
課題 2-1 (10%)	□アニメーションの途中でコンソールから変数の内容を console.log()を用いて出力している。 □ブロックレベルが異なる変数をチェックしている。 □関数についてもチェックしている。	□アニメーションの終了後に コンソールから変数の内容 を console.log()を用い て出力している。 □ブロックレベルが異なる変 数をチェックしている。 □関数についてチェックして いない。	□コンソールから変数の内容を console.log()を用いて出力している。 □ブロックレベルが異なる変数をチェックしている。 □図がアニメーションが途中になっていないか、途中であることがわからない。	説図考
課題 2-2 2-3 (10%)	□グローバル変数減少の利点について十分な説明がある。 □即時実行関数の利点について十分な説明がある。 □グローバル変数減少の方法に関して他の言語との比較がある。	□グローバル変数減少の利点の開発側からの視点がある。 □グローバル変数減少の利点のライブラリー利用者側からの視点がある。 □即時実行関数の利点について十分な説明がある。 □グローバル変数減少の方法に関して他の言語との比較がない。	□グローバル変数減少の利点の開発側からの視点がない。 □グローバル変数減少の利点のライブラリー利用者側からの視点がない。	説考
課題 2-4 (10%)	□今までの課題でグローバル 変数をすべてなくしたもの に書き直している。 □書き直しの方針について十 分な説明がある。	□今までの課題でグローバル 変数をほとんどなくしたも のに書き直している。 □書き直しの方針について説 明がある。	□今までの課題でグローバル 変数をなくしかたが不十分 であるか、全くしていない。 □書き直しの方針について説 明がない。	リ説図考
課題 3-1 (10%)	□配列のメソッドを的確に用いて2つのプログラムを作成している。 □いろいろな場合について作成したプログラムをチェックしている。	□map()を用いて5で割った 余りの配列を正しく作成し ている。 □filter()を用いて奇数で ある要素を選び出している。 □処理される配列がチェック にふさわしい。	□map()なしで5で割った余りの配列を作成している。 □filter()なしで奇数である要素を選び出している。 □処理される配列がチェックにふさわしくない。	説考
課題 3-2 (10%)	□配列のメソッドを利用する ものと利用しないものを正 しく作成している。 □利用している配列のメソッ ドの種類が十分にある。 □配列のメソッドを利用する 場合としない場合の違いを 比較検討している。	□配列のメソッドを利用するものと利用しないものを作成している。 □利用している配列のメソッドの種類が2つしかない。 □配列のメソッドを利用する場合としない場合の比較検討が少し不十分である。	□配列のメソッドを利用するものと利用しないものを作成していないか、利用の仕方が間違っている。 □利用している配列のメソッドの種類が1つ以下である。 □配列のメソッドを利用する場合としない場合の比較検討がないか不十分である。	説考
課題 3-3 (10%)	□今までの課題で必要なところを配列のメソッドですべて書き直している。 □書き直しの方針について十分な説明がある。	□今までの課題で必要なところを配列のメソッドでほとんど書き直している。 □書き直しの方針について十分な説明がある。	□今までの課題で必要なところを配列のメソッドでの書き直しが不十分であるかほとんどしていない。 □書き直しの方針について十分な説明がない。	リ説図考

情報メディア専門ユニット I(演習) 第7回(6/6) プレゼンテーション

この回の予習に基づいてグループ内で議論したことや工夫した点について報告する。

グループメンバー学籍番号

評価 項目	優れている	改良の余地あり
発表 技法 (20%)	□はっきりと丁寧に説明していた。 □発表の際に聴衆の反応を確かめていた。 □間の取り方がよかった。 □決められた時間に近い範囲で行った。 □機材の設定や準備がすぐできた。	□説明が途切れた。 □声が少し大きすぎたか小さすぎた。 □発表の際に聴衆の方をあまり見ていない。 □決められた発表時間が長いまたは短い。 □手元の資料やPC画面を見て発表していた。 □機材の設定や準備に時間がかかった。
発表 構成 (30%)	□初めに発表内容に関する概要があった。 □発表内容の順序がよい。 □各構成の部分のバランスが良かった。 □図や表を使い簡潔にまとめられていた。 □引用は適切である。	 □文字だけの発表であった。 □図が見づらい。 □項目の内容の分量にばらつきがあった。 □スライドごとに情報の詳しさが異なりすぎた。 □ページの分量が発表時間に対して少し足りない、または多い。
発表 内容 (50%)	□内容に間違いがなかった。 □図の使い方がよかった。 □SVG または HTML のデモが適切である。 □内容が自分の言葉で述べられていた。 □それぞれの項目の関連性とバランスがよかった。 □発表したいことが十分に説明されていた。 □自分の意見が明確であった。	□内容の説明不足なところがある。 □図が少なくて説明がわかりずらい。 □実際のデモのがない、または少ない。 □内容に関して独自性がない。 □それぞれの項目の関連性が不十分である。 □発表内容の必要性の説明が足りない。